

Daily Report (号外)

～4月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が5月3日に発表した4月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+17.5万人と市場予想(同+24.0万人)を下回る結果となりました。なお、3月の非農業部門雇用者数は+31.5万人(速報値+30.3万人)に上方修正されました。

業種別では娯楽・宿泊業が+0.5万人(前月+5.3万人)、建設業が+0.9万人(同+4.0万人)と伸びが鈍化し、情報が▲0.8万人(同+0.4万人)と減少に転じるなど、労働需要の軟化を示す結果となりました。

失業率は3.9%と市場予想(3.8%)を上回り、前月(3.8%)から上昇しました。

平均時給は前年同月比+3.9%と市場予想(同+4.0%)を下回り、2021年6月以来の小幅な伸びとなりました。前月比は+0.2%と市場予想(同+0.3%)を下回り、前月(同+0.3%)から鈍化しました。

労働参加率は+62.7%と市場予想(+62.7%)通りとなり、前月から変化しませんでした。

市場反応(米国市場)

3日の米国株式市場は揃って上昇しました。

米雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を下回ったことや、失業率が市場予想を上回ったことで労働市場の過熱感が和らぎつつあることが示され、FRBによる利下げ開始時期が前倒しされるとの見方が広がり、NYダウ平均株価は前日比+1.18%、S&P500指数は同+1.26%、ナスダック総合指数は同+1.99%となりました。6日も予想を上回る決算発表が投資家心理を支えたことで続伸し、NYダウ平均株価は前日比+0.46%、S&P500指数は同+1.03%、ナスダック総合指数は同+1.19%となりました。

3日の米国債券市場は、市場予想を下回る米雇用統計の結果を受け、年内の利下げ観測が強まり買いが優勢となった一方、同日発表されたISM非製造業景況指数でインフレの兆しが示されたことを受け伸び悩み、10年債利回りは前日比▲0.07%の4.51%程度で終わりました。6日も引続き買いが優勢となりましたが、国債入札を控え小幅な値動きとなり、前日比▲0.02%の4.49%程度となりました。

3日の米ドル/円は米雇用統計の結果を受け、米長期金利が低下し日米金利差が縮小したことで、円買いドル売りが進み前日比59銭円高ドル安の153円5銭程度で取引を終えました。一方6日は、6月のFOMCでは利下げが見送られるという見方や、依然として高水準の日米金利差を受けた円売り・ドル買いが優勢となり、前日比87銭円安ドル高の153円92銭程度となりました。



評価・今後の見通し

4月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を下回ったほか、失業率が前月から上昇するなど、米労働市場の需給緩和を示す内容となったことに加え、平均時給が市場予想を下回ったことにより、賃金インフレ圧力の鈍化を示唆する結果となりました。

市場では今回の米雇用統計の結果を受け、労働市場の過熱感の低下から利下げ開始時期の先送り懸念が後退し、FRBが年内に利下げを実施するという見方が強まりました。

市場の予想する利下げ時期は、6月のFOMCでの利下げを見送る確率は89%程度と引続き大半を占めている一方、労働市場の弱まりを示した米雇用統計の結果を受け、7月のFOMCで利下げをする確率が30%程度、9月のFOMCまでに利下げを実施する確率は78%程度と、FRBが年内に利下げを実施する可能性が高いとの予想が徐々に強まっています。

今後の株式市場の見通しとしては、短期的には5月14日発表の米生産者物価指数、15日発表の米消費者物価指数、同日発表の米小売売上高など引続きインフレや景気動向に関連する指標に加え、22日のFOMC議事要旨及び29日の米地区連銀経済報告(ページブック)の公表に注目が集まると考えます。

長期的にはFRBは市場の早期利下げ期待をけん制しつつ、慎重に金融政策を実施していくとみられることから、経済指標次第の様相が強まりボラティリティの高い相場が継続するとみています。また、今後はインフレが思うように収束せず、政策金利が現状の水準にしばらく維持されるというリスクや、米景気の急減速によりFRBが早期利下げに追い込まれるといったリスクには警戒が必要と考えます。

Daily Report(号外)

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所:米国労働省

| | 23/11 | 23/12 | 24/1 | 24/2 | 24/3 | 24/4 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 非農業部門 | +18.2 | +29.0 | +25.6 | +23.6 | +31.5 | +17.5 |
| 鉱工業部門 | +3.6 | +3.3 | +3.0 | +1.5 | +3.9 | +1.4 |
| 建設業 | +1.5 | +1.8 | +2.6 | +2.4 | +4.0 | +0.9 |
| 製造業 | +2.5 | +1.2 | +0.6 | -0.9 | -0.4 | +0.8 |
| 資源・鉱業 | -0.4 | +0.3 | -0.2 | +0.0 | +0.3 | -0.3 |
| サービス部門 | +11.6 | +18.1 | +16.6 | +16.6 | +20.4 | +15.3 |
| 卸売業 | +0.7 | +0.7 | -0.7 | -0.4 | +1.0 | +1.0 |
| 小売業 | -4.3 | +3.2 | +1.7 | +2.3 | +1.5 | +2.0 |
| 輸送・倉庫業 | -1.1 | -1.8 | -0.4 | +3.1 | +0.6 | +2.2 |
| 情報 | +1.7 | +1.3 | +0.8 | -0.3 | +0.4 | -0.8 |
| 金融 | +0.4 | +0.6 | -0.4 | -0.7 | +0.5 | +0.6 |
| 専門・ビジネスサービス業 | +1.0 | +1.3 | +4.8 | +0.6 | +1.0 | -0.4 |
| 人材派遣業 | -1.4 | -2.1 | +0.8 | -1.6 | -0.3 | -1.6 |
| 教育・ヘルスケア業 | +11.0 | +8.4 | +10.0 | +8.0 | +8.8 | +9.5 |
| 娯楽・宿泊業 | +1.0 | +4.1 | -0.3 | +2.6 | +5.3 | +0.5 |
| その他 | 2.5 | 2.4 | 0.3 | 2.9 | 1.5 | 2.3 |
| 政府部門 | +3.0 | +7.6 | +6.0 | +5.5 | +7.2 | +0.8 |
| 失業率(%) | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 3.9 | 3.8 | 3.9 |
| 平均時給(前年同月比、%) | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.3 | 4.1 | 3.9 |

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2019年3月~2024年4月 (出所)Bloomberg